

令和 7 年度
国営土地改良事業地区調査

能代二期地区第 1 号導水路隧道背面空洞他調査設計
業務

現場説明書

1. 一般事項

契約の保証については別紙１のとおり。

2. 積算体系

本業務の積算体系は、特別仕様書（案）第３－１条Ⅰ．調査作業は「地質、土質調査業務」、Ⅱ．設計作業は「設計業務」としている。

3. 作業歩掛等について

本業務の作業歩掛は別紙２による。なお、歩掛の妥当性を検証するため、見積歩掛実態調査を別紙３に定める様式により行うものとする。

4. 積算基地

本業務の積算基地は、「仙台市」で考えている。

5. 打合せについて

- (１) 本業務の打合せ工種は「その他」で考えており、配置人員は次のとおりである。
また、調査作業に関する打合せも下表により一括で行うことで考えている。
なお、打合せ場所は西奥羽土地改良調査管理事務所とする。

打合せ	職 種 (人)		
	主任技師	技師 A	技師 B
初 回	1.0	1.0	
中間 (第 2 回)		1.0	1.0
中間 (第 3 回)		1.0	1.0
中間 (第 4 回)		1.0	1.0
最終回	1.0	1.0	

- (２) 打合せは通勤により考えており、打合せに係る基準日額は直接人件費に以下のとおり計上している。

区分	打合せ (日)			往復移動 (日)		
打合せ段階	主任技師	技師 A	技師 B	主任技師	技師 A	技師 B
初 回	0.5	0.5		1.0	1.0	
中間 (第 2 回)		0.5	0.5		1.0	1.0
中間 (第 3 回)		0.5	0.5		1.0	1.0
中間 (第 4 回)		0.5	0.5		1.0	1.0
最終回	0.5	0.5		1.0	1.0	

- (３) 打合せに係る交通費は公共交通機関（新幹線及び路線バス）による往復交通費を直接経費に計上している。

6. 設計作業外業（現地調査）について

第１号導水路、右岸幹線用水路、左岸幹線用水路及び浅内支線用水路の現地調査は同時に行うことを想定している。

現地調査は滞在で考えているが、宿泊費及び宿泊手当については当初計上していない。なお、受注者から宿泊情報（例：宿泊施設の名称・住所、宿泊日、宿泊者名、夕食・朝食の有無、宿泊料金が記載された領収書）が分かる資料の提出を求め、妥当性を確認のうえ、調査・測量・設計業務等旅費交通費積算要領に基づき、設計変更にて計上する。

宿泊エリアは秋田県能代市を想定している。

積算基地から現地までの交通費（ライトバン運転経費、高速道路利用料金（仙台宮城IC～琴丘森岳本線IC））を計上している。

また、直接人件費に旅行日に係る基準日額を計上している。

1) 現地作業における宿泊日数

作業内容	主任技師	技師A	技師B
現地調査	6日	6日	6日

2) 旅行日に係る基準日額

主任技師	技師A	技師B	備考
1.0	1.0	1.0	往路0.5日、復路0.5日

7. 調査作業外業について

(1) 第1号導水路隧道局所破壊調査

1) 現地調査は滞在で考えているが、宿泊費及び宿泊手当については当初計上していない。

なお、受注者から宿泊情報（例：宿泊施設の名称・住所、宿泊日、宿泊者名、夕食・朝食の有無、宿泊料金が記載された領収書）が分かる資料の提出を求め、妥当性を確認のうえ、調査・測量・設計業務等旅費交通費積算要領に基づき、設計変更にて計上する。

宿泊エリアは秋田県能代市を想定している。

積算基地から現地までの交通費（ライトバン運転経費、高速道路利用料金（仙台宮城IC～琴丘森岳本線IC））計上している。

また、直接人件費に旅行日に係る基準日額を計上している。

現地作業における宿泊日数

作業内容	地質調査技師	主任地質調査員	地質調査員
第1号導水路 隧道局所破壊調査	13日	13日	13日

旅行日に係る基準日額

地質調査技師	主任地質調査員	地質調査員	備考
1.0	1.0	1.0	往路0.5日、復路0.5日

2) 調査箇所は下表を想定している。

測点	隧道延長	局所破壊調査箇所数
NO. 1+15.836～NO. 75+20.974	7,404m	15箇所
NO. 75+30.397～NO. 80+93.197	563m	1箇所
NO. 81+3.197～NO. 96+15.897	1,513m	3箇所
NO. 96+36.897～NO. 100+88.897	425m	1箇所
NO. 101+32.897～NO. 106+76.897	543m	1箇所
NO. 107+69.497～NO. 111+19.488	349m	1箇所
NO. 112+95.188～NO. 114+67.288	172m	
計	10,969m	22箇所

(2) PC管健全度調査

現地調査は滞在で考えているが、宿泊費及び宿泊手当については当初計上していない。

なお、受注者から宿泊情報（例：宿泊施設の名称・住所、宿泊日、宿泊者名、夕食・朝食の有無、宿泊料金が記載された領収書）が分かる資料の提出を求め、妥当性を確認のうえ、調査・測量・設計業務等旅費交通費積算要領に基づき、設計変更にて計上する。

宿泊エリアは秋田県能代市を想定している。

積算基地から現地までの交通費（高速道路利用料金（仙台宮城IC～琴丘森岳本線IC））を計上している。

また、直接人件費に旅行日に係る基準日額を計上している。

なお、ライトバンに係る経費は別紙2に示す歩掛に含まれており、計上していない。

1) 現地作業における宿泊日数

作業内容	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員
P C管健全度調査	4 日	4 日	4 日	2 日	2 日

2) 旅行日に係る基準日額

主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員	備考
1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	往路0.5日、復路0.5日

(3) 土壌・水質調査

現地調査は滞在で考えているが、宿泊費及び宿泊手当については当初計上していない。

なお、受注者から宿泊情報（例：宿泊施設の名称・住所、宿泊日、宿泊者名、夕食・朝食の有無、宿泊料金が記載された領収書）が分かる資料の提出を求め、妥当性を確認のうえ、調査・測量・設計業務等旅費交通費積算要領に基づき、設計変更にて計上する。

宿泊エリアは秋田県能代市を想定している。

積算基地から現地までの交通費（ライトバン運転経費、高速道路利用料金（仙台宮城IC～琴丘森岳本線IC））を計上している。

また、直接人件費に旅行日に係る基準日額を計上している。

1) 現地作業における宿泊日数

作業内容	地質調査技師	地質調査員
土壌・水質調査	11日	21日

2) 旅行日に係る基準日額

地質調査技師	地質調査員	備考
1.0	1.0	往路0.5日、復路0.5日

(4) 右岸幹線用水路、左岸幹線用水路、浅内支線用水路での試掘作業

1) 各施設の掘削及び埋戻しの標準断面図は別紙4に示すとおりであり、土量は下表を想定している。

試掘調査箇所	地目（現況）	掘削土量	人力埋戻土量	機械埋戻土量
右岸幹線用水路	施設用地	100m ³	43m ³	57m ³
左岸幹線用水路	施設用地	149m ³	22m ³	127m ³
浅内支線用水路	畑	60m ³	26m ³	34m ³

2) 各施設試掘調査箇所の移動距離は、右岸幹線用水路～左岸幹線用水路間がL=15.0 k m、左岸幹線用水路～浅内支線用水路間がL=4.0 k mを想定している。

8. 一括計上価格

(1) 試掘作業に係る費用は下表のとおり一括計上価格に計上している。

作業内容	名 称	数 量	金 額	作業日数
試掘調査3箇所 の掘削及び 埋戻作業	労務費	1式	750,000円	21日
	機械経費	1式	600,000円	
	諸経費	1式	2,000,000円	

(2) 土壌分析費（1検体当たり）は、①直接人件費、②直接経費（材料費、動力光熱費、機械損料）、③諸経費（間接経費、一般管理費）を含んでおり、下表のとおり一括計上価格に計上している。

土壌分析項目	土壌分析費 （1検体当たり）
電気比抵抗	2,500円／検体
電気伝導度	1,300円／検体
P H	1,800円／検体

Redox電位	2,000円／検体
含水比	1,600円／検体
硫化物の有無	3,800円／検体

- (3) 水質分析費（1検体当たり）は、①直接人件費、②直接経費（材料費、動力光熱費、機械損料）、③諸経費（間接経費、一般管理費）を含んでおり、下表のとおり一括計上価格に計上している。

水質分析項目	水質分析費 (1検体当たり)
遊離炭酸	4,000円／検体
総酸度	2,050円／検体
硫化イオン	2,750円／検体
塩素イオン	2,650円／検体

9. 暴力団員等による不当介入を受けた場合の措置について

- (1) 部局長が発注する建設工事及び測量・建設コンサルタント等業務（以下「発注工事等」という。）において、暴力団員等による不当要求又は工事（業務）妨害（以下「不当介入」という。）を受けた場合は、断固としてこれを拒否するとともに、不当介入があった時点で速やかに警察に通報を行うとともに、捜査上必要な協力を行うこと。
- (2) (1)により警察に通報を行うとともに、捜査上必要な協力を行った場合には、速やかにその内容を記載した書面により発注者に報告すること。
- 発注工事等において、暴力団員等による不当介入を受けたことにより行程に遅れが生じる等の被害が生じた場合は、発注者と協議を行うこと。

10. 被災者の就労機会の確保について

受注者は、外業等の業務に当たって、地震等被災地域における被災者（農林漁家を含む）の就労希望者を優先的に雇用するよう努めるものとする。

なお、被災者等の雇用においては、賃金等の支払いが適正かつ遅滞なく行われるよう配慮すること。

別紙 1

○ 契約の保証について

- (1) 落札者は、業務請負契約書案の提出とともに、以下アからオのいずれかの書類を提出しなければならない。ただし、以下アからオのいずれかの書類に代えて、業務完了保証人を付することができる。

ア 契約保証金に係る保管金領収証書及び保管金提出書

- (ア) 保管金領収証書は、「日本銀行秋田支店」に契約保証金の金額に相当する金額の金銭を払い込んで、交付を受けること。
- (イ) 保管金領収証書の宛名の欄には、「東北農政局西奥羽土地改良調査管理事務所 歳入歳出外現金出納官吏 庶務課長 鈴木 智宏」と記載するように申し込むこと。
- (ウ) 請負代金額の変更により契約保証金の金額を変更する場合の取扱いについては、契約担当官等の指示に従うこと。
- (エ) 受注者の責に帰すべき事由により契約が解除されたときは、契約保証金は、会計法第 29 条の 10 の規定により国庫に帰属する。なお、違約金の金額が契約保証金の金額を超過している場合は、別途、超過分を徴収する。
- (オ) 受注者は、業務完了後、請負代金額の支払請求書の提出とともに保管金の払い渡しを求める旨の保管金払渡請求書を提出すること。

イ 契約保証金に代わる担保としての有価証券（利付国債に限る。）に係る政府保管有価証券払込済通知書及び政府保管有価証券提出書。

- (ア) 政府保管有価証券払込済通知書は、「日本銀行仙台支店」に契約保証金の金額に相当する金額の利付国債を払い込んで、交付を受けること。
- (イ) 政府保管有価証券払込済通知書の宛名の欄には、「政府保管有価証券取扱主任 官東北農政局総務部会計課課長補佐（主計） 佐藤 淳一」と記載するように申し込むこと。
- (ウ) 請負代金額の変更により契約保証金の金額を変更する場合の取扱いについては、契約担当官等の指示に従うこと。
- (エ) 受注者の責に帰すべき事由により契約が解除されれば、政府保管有価証券は、会計法第 29 条の 10 の規定により国庫に帰属する。なお、違約金の金額が契約保証金の金額を超過している場合は、別途、超過分を徴収する。
- (オ) 受注者は、業務完了後、請負代金額の支払請求書の提出とともに政府保管有価証券払渡請求書を提出すること。

ウ 債務不履行時による損害金の支払いを保証する金融機関等の保証に係る保証書

- (ア) 契約保証金の支払の保証ができる者は、出資の受入れ、預り金及び金利等の取締りに関する法律（昭和 29 年法律第 195 号）に規定する金融機関である銀行、信託会社、保険会社、信用金庫、信用金庫連合会、労働金庫、労働金庫連合会、農林中央金庫、商工組合中央金庫、信用協同組合、農業協同組合、水産業協同組合若しくはその他の貯金の受入れを行う組合（以下「銀行等」という。）又は公共工事の前払金保証事業に関する法律（昭和 27 年法律第 184 号）第 2 条第 4 項に規定する保証事業会社（以下「金融機関等」と総称する。）とする。
- (イ) 保証書の宛名の欄には、「分任支出負担行為担当官 東北農政局西奥羽土地改良調査管理事務所長 渡辺 英樹」と記載するように申し込むこと。

- (ウ) 保証債務の内容は業務請負契約書に基づく債務の不履行による損害金の支払いであること。
- (エ) 保証書上の保証に係る業務の業務名の欄には、業務請負契約書に記載される業務名が記載されるように申し込むこと。
- (オ) 保証金額は、契約保証金の金額以上であること。
- (カ) 保証期間は、履行期間を含むものとする。
- (キ) 保証債務履行の請求の有効期間は、保証期間経過後 6 か月以上確保されるものとする。
- (ク) 請負代金額の変更により契約保証金の金額を変更する場合又は履行期間を変更する場合等の取扱については、契約担当官等の指示に従うこと。
- (ケ) 受注者の責に帰すべき事由により契約が解除されれば、金融機関等から支払われた保証金は、会計法第 29 条の 10 の規定により国庫に帰属する。なお、違約金の金額が保証金額を超過している場合は、別途、超過分を徴収する。
- (コ) 受注者は、業務完了後、契約担当官等から保証書（変更契約書がある場合は、変更契約書を含む。）の返還を受け、銀行等に返還するものとする。

エ 債務の履行を保証する公共工事履行保証証券による保証に係る証券

- (ア) 公共工事履行保証証券とは、保険会社が保証金額を限度として債務の履行を保証する保証である。
- (イ) 公共工事履行保証証券の宛名の欄には、「分任支出負担行為担当官 東北農政局西奥羽土地改良調査管理事務所長 渡辺 英樹」と記載するように申し込むこと。
- (ウ) 証券上の主契約の内容としての業務名の欄には、業務請負契約書に記載される業務名が記載されるように申し込むこと。
- (エ) 保証金額は、請負代金額の 10 分の 1 の金額以上とする。（一般競争の場合は、10 分の 3 の金額以上とする。）
- (オ) 保証期間は、履行期間を含むものとする。
- (カ) 請負代金額を変更する場合又は履行期間を変更する場合の取扱については、契約担当官等の指示に従うこと。
- (キ) 受注者の責に帰すべき事由により契約が解除されれば、保険会社から支払われた保証金は、会計法第 29 条の 10 の規定により国庫に帰属する。なお、違約金の金額が保証金額を超過している場合は、別途、超過分を徴収する。

オ 債務の不履行により生ずる損害をてん補する履行保証保険契約に係る証券

- (ア) 履行保証保険とは、保険会社が債務不履行時に、保険金を支払うことを約する保険である。
- (イ) 履行保証保険は、定額てん補方式を申し込むこと。
- (ウ) 保険証券の宛名の欄には、「分任支出負担行為担当官 東北農政局西奥羽土地改良調査管理事務所長 渡辺 英樹」と記載するように申し込むこと。
- (エ) 証券上の主契約の内容としての業務名の欄には、業務請負契約書に記載される業務名が記載されるように申し込むこと。
- (オ) 保険金額は、請負代金額の 10 分の 1 の金額以上とする。（一般競争の場合は、10 分の 3 の金額以上とする。）
- (カ) 保険期間は、履行期間を含むものとする。
- (キ) 請負代金額を変更する場合の取扱については、契約担当官等の指示に従うこと。
- (ク) 受注者の責に帰すべき事由により契約が解除されれば、保険会社から支払われた保険金は、会計法第 29 条の 10 の規定により国庫に帰属する。なお、違約金の

金額が保険金額を超過している場合は、別途、超過分を徴収する。

- (2) (1)の規定にかかわらず、予算決算及び会計令（昭和 22 年勅令第 165 号）第 100 条の 2 第 1 項第 1 号の規定により業務請負契約書の作成を省略することができる業務請負契約である場合は、契約の保証を付さなくてよいものとする。

(3) その他

保険証券等の電磁的方法による提出

保証証書等（契約の保証に係る保証書若しくは証券又は前払金保証に係る保証証書をいう。以下同じ。）の提出又は寄託に代えて電磁的方法（電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信の技術を利用する方法をいう。）であって、金融機関等が定め、契約担当官等の認める措置（以下「電磁的方法による提出」という。）を行う場合は、受注者は、保証証書等の提出又は寄託に代えて、電子証書等閲覧サービス（電子証書等を電気通信回線を通じて発注者等の閲覧に供するために、電子計算機を用いた情報処理により構築されたサービスであって、保険会社又は保証事業会社が指定するものをいう。）上にアップロードされた電子証書等を閲覧するために用いる契約情報（電子証書等の保険契約番号又は保証契約番号をいう。）及び認証情報（電子証書等の保険契約番号又は保証契約番号に関連付けられたパスワードをいう。）を契約担当官等に提供し、契約担当官等が、当該契約情報及び認証情報を用いて当該電子証書等を閲覧することをもって代えることができる。保証契約番号及び認証情報は、可能な限り電子契約システムを介して提供すること。

なお、保険会社の発行する電子証書等については、暫定的な取扱いとして電子メールを用いて提出することができる。この場合の提出方法については、保険会社、契約担当官等に確認し、指定された手順を踏むこと。

別紙2 作業歩掛

【1. 調査作業】

(単位：人)

作業項目	数量	職 種						備考
		地質調査 技師	主任地質 調査員	地質 調査員				
1. 第1号導水路								
(1) 局所破壊調査	1式	9.00	9.00	9.00				材料費 30.0% 機械経費30.0%
合 計		9.00	9.00	9.00				

※ (1) 局所破壊調査に係る材料費（ポリマーセメントモルタル）並びに機械経費（ハンマードリル、ファイバースコープ）を直接人件費の合計に対する割合として、備考欄に記載。

(単位：人)

作業項目	数量	職 種						備考
		技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員	
2. 右岸幹線用水路、左岸幹線用水路、浅内支線用水路								
(1) 試掘によるPC管健全度調査								
1) 目視調査	1式		2.00	2.00	2.00			材料費 2.5% 機械経費 5.0%
2) チッピングによる健全カバーコートかぶり厚調査	1式		1.50	1.50	1.50			材料費 2.5% 機械経費 5.0%
3) フェノールフタレイン法による中性化試験		土地改良工事積算基準（調査・測量・設計）の標準歩掛を使用						見積対象外
4) その他記録しておく事項	1式		0.50	0.50	0.50			
合 計		0.00	4.00	4.00	4.00	0.00	0.00	

※ (1) 試掘によるPC管健全度箇所の 1) 目視調査に係る機械経費（ライトバン損料）及び材料費（ガソリン費用）を直接人件費の合計に対する割合として、備考欄に記載。

※ (1) 試掘によるPC管健全度調査の 2) チッピングによる健全カバーコートかぶり厚調査に掛かる機械経費（ノミ、金槌、ノギス、ライトバン損料）及び材料費（ガソリン費用）を直接人件費の合計に対する割合として、備考欄に記載。

(単位：人)

作業項目	数量	職 種						備考
		地質調査 技師	主任地質 調査員	地質 調査員				
2. 右岸幹線用水路、左岸幹線用水路、浅内支線用水路								
(2) 土壌・水質調査								
1) 土壌分析試料の採土	1式 (3試料当たり)	0.30		0.60				材料費 4.0% 機械経費 4.0%
2) 土壌分析試料の採土	1式 (7試料当たり)	3.50		7.00				材料費 4.0% 機械経費17.0%
3) 土壌分析	1式							
4) 水質分析試料の採水	1式 (3試料当たり)	1.50		3.00				材料費 7.0% 機械経費17.0%
5) 水質分析試料の採水	1式 (7試料当たり)	2.10		4.20				材料費 7.0% 機械経費15.0%
6) 水質分析	1式							
合 計		7.40	0.00	14.80				

※ 1) 土壌分析試料の採土（掘削断面内での採土）に係る材料費（容器）及び機械経費（スコップ）を直接人件費の合計に対する割合として備考欄に記載。

※ 2) 土壌分析試料の採土（ハンドオーガーによる採土）に係る材料費（容器）及び機械経費（ハンドオーガー）を直接人件費の合計に対する割合として備考欄に記載。

※ 4) 水質分析試料の採水（ハンドオーガーにより調査孔を新設）に係る材料費（容器、有効塩ビ管φ50）及び機械経費（ハンドオーガー、ベアラー採水器）を直接人件費の合計に対する割合として備考欄に記載。

※ 5) 水質分析試料の採水（1-3-2.の調査孔を使用）に係る材料費（容器、有効塩ビ管φ50）及び機械経費（ベアラー採水器）を直接人件費の合計に対する割合として備考欄に記載。

【Ⅱ．設計作業】

(単位：人)

作 業 項 目	数量	職 種						備 考
		技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員	
1. 第1号導水路								
(1) 現地調査	1 式		3.0	3.0	3.0			
(2) 資料の検討	1 式		0.5	2.0	4.0	4.0		
(3) 局所破壊調査結果の整理	1 式			3.0	3.0	5.0	3.0	
(4) 対策工要否の判定	1 式		2.0	2.0	3.0			
(5) 照査	1 式		2.0					
(6) 点検とりまとめ	1 式		4.0	2.5	3.0			
計 1		0.00	11.5	12.5	16.0	9.0	3.0	
右岸幹線用水路 2. 左岸幹線用水路 浅内支線用水路								
(1) 現地調査	1 式		3.0	3.0	3.0			
(2) 資料の検討	1 式		0.5	3.0	5.0	5.0		
(3) P C管健全度評価	1 式		2.0	3.0	4.0	3.0		
(4) 耐荷性の評価	1 式		3.0	6.0	9.0	6.0		
(5) 性能低下要因の推定と対策検討	1 式		5.0	5.0	10.0	10.0	5.0	
(6) 照査	1 式		3.0					
(7) 点検とりまとめ	1 式		4.0	6.0	3.0	3.0		
計 2		0.00	20.5	26.0	34.0	27.0	5.0	
合計 1 + 2		0.00	32.0	38.5	50.0	36.0	8.0	

見積歩掛実態調査表

1. 調査目的

本調査は土地改良工事における「〇〇工△△設計」について、その実態を把握し、見積歩掛の妥当性の検証、積算の適正化を図ることを目的としている。

(※上記〇〇は当該工種名を記載する。△△は「構想」「基本」「実施」のいずれかを記載する)

2. 概要

発注者記入	局 名	
	事 業 所 名	
	業 務 名	
	担 当 者 名	
受注者記入	受 注 者 名	
	受注担当者名	
	担当者連絡先	

3. 歩掛調査様式

作業項目	作 業 内 容	歩 掛 (積算者記載)						歩 掛 (受注者記載)					
		技師 長	主任 技師	技師 A	技師 B	技師 C	技術 員	技師 長	主任 技師	技師 A	技師 B	技師 C	技術 員
合 計													

※作業項目及び作業内容は使用した見積歩掛のものを記載する。

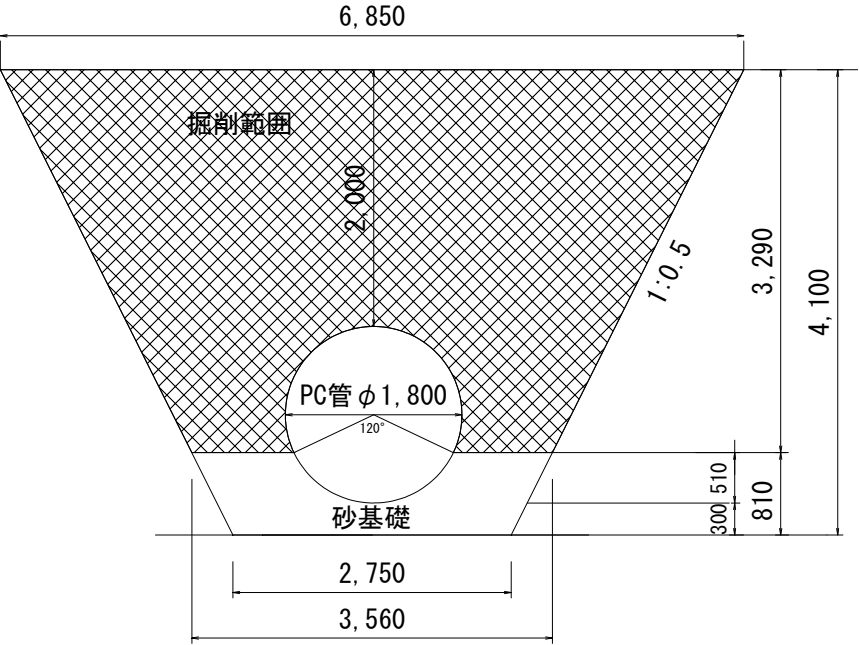
4. 歩掛に差異が生じた理由 (発注者記入)

5. 歩掛に差異が生じた理由 (受注者記入)

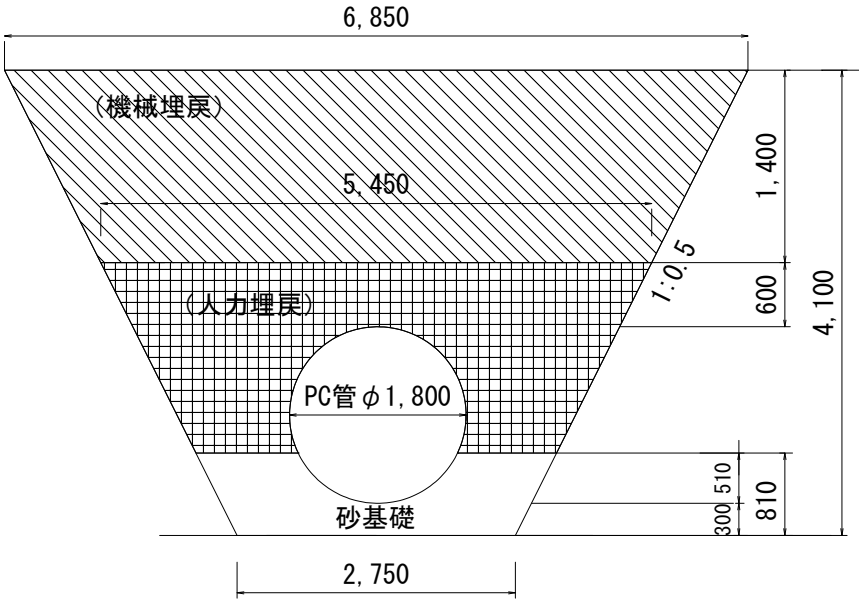
右岸幹線用水路 試掘調査標準断面図

測点 : No.10

標準断面図（掘削）



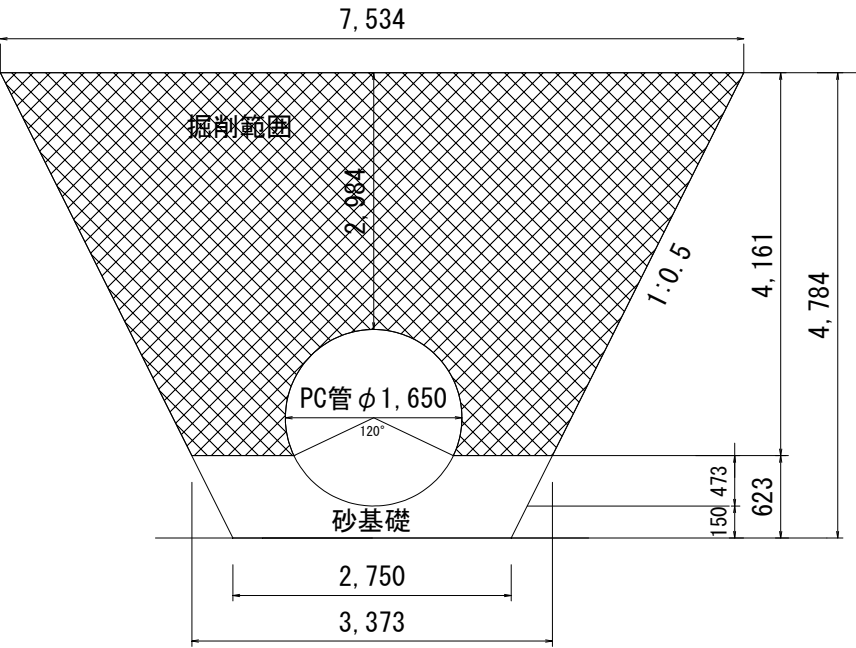
標準断面図（埋戻）



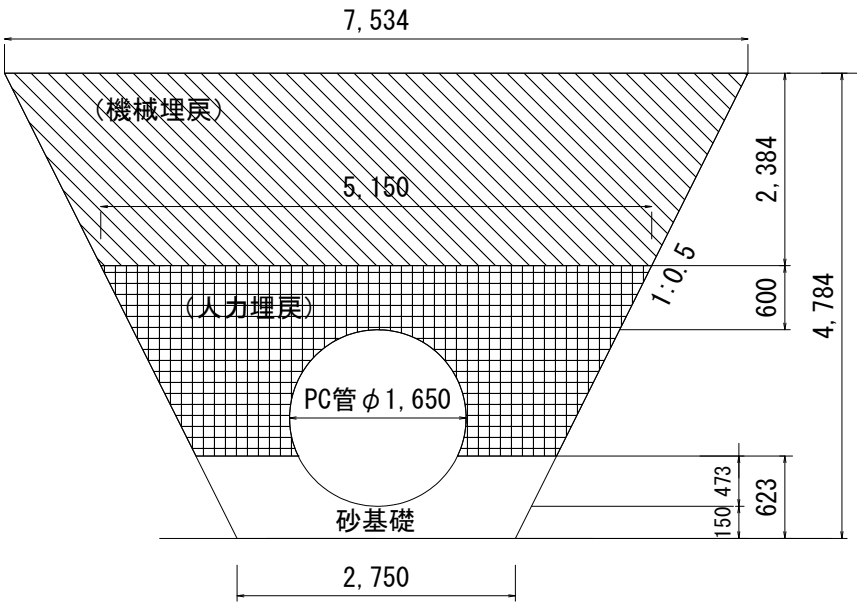
左岸幹線用水路 試掘調査標準断面図

測点 : No.0+34.468

標準断面図 (掘削)



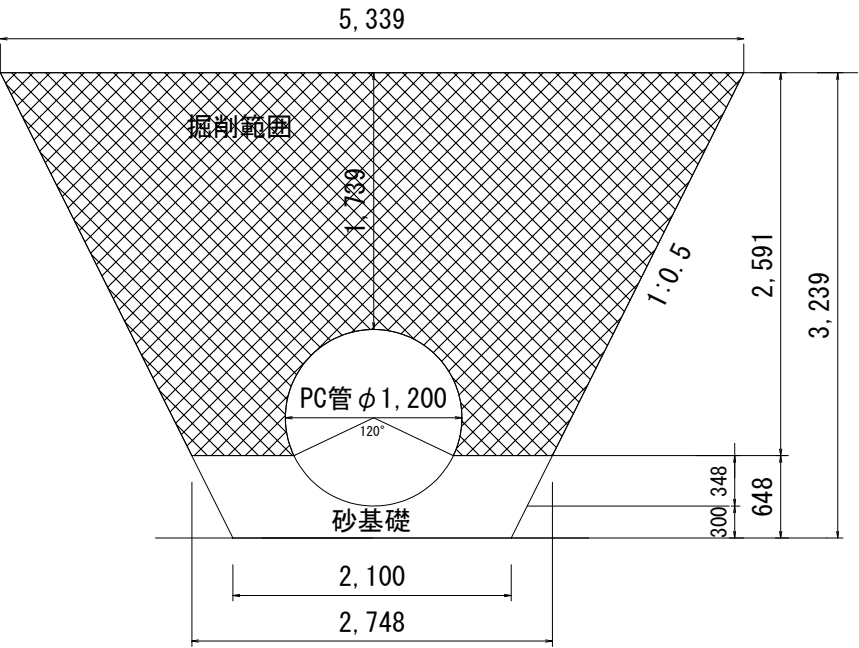
標準断面図 (埋戻)



浅内支線用水路 試掘調査標準断面図

測点 : No.5

標準断面図（掘削）



標準断面図（埋戻）

